

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

1 単元名 「世界の中のわたし ～町づくりから見えること～」(国際理解)

2 指導観

＜こんな子どもだから＞

子ども達は、これまでの総合的な学習の時間に、アジアマンス等を通してアジアの文化や習慣などに興味をもって接してきている。しかし、事前のアンケートで行ってみたい国はと質問すると、「アメリカ」が半数以上を占め、「中国」「大韓民国」が少数いたものの東南アジアや西アジアの国々へ行ってみたいと答えた子どもはいなかった。また、発展途上国が抱える住居や上下水道、ゴミなどの問題について、「知っている」と答えた子どもは80%いたが、知っていることを自由記述する欄には、ほとんどの子どもが白紙であった。(関心・意欲・態度)

聴き合い活動では、自分の考えを相手に分かるように伝えようとして、相手の話を共感的な態度で聴き、自分の経験とつなげて感想を言ったりできるようになっている。

(技能・表現)

子ども達は、友達が困っている時に進んで助けたり、相手の気持ちを考えて行動したりすることができるようになってきている。しかし、新聞やテレビなどで報道される発展途上国の都市の問題を見て「かわいそう」といった一面的な見方しかしていない子どもがほとんどである。

(総合的な思考・判断)

＜こんな単元で＞

本単元は、アジアの発展途上国の都市が住居等の問題を抱えていることとその問題に取り組む国連機関ハビタットの活動を知り、この問題に対して今後自分にできることはどんなことかを多面的に考えることができるようになることがねらいである。

子ども達にとって身近でない発展途上国の都市の問題を、同世代の子ども達がそこで暮らしている様子の写真やビデオで問題を実感させたい。また、国連機関ハビタットのAさんにゲストティーチャーに来ていただき、発展途上国の現状を話していただくとともに、ハビタットで活動されるにあたっての思いや願い、子ども達へのメッセージを話していただくことで、子ども達が考えている「自分にできること」を見直していく手立てとしたい。

ハビタットの方は、貧困で苦しむ地域に自ら入って、地域住民が自分たちに必要なものや今後の生活の計画を立てたことに対して支援をされている。子ども達には、ハビタットのように、他の人の立場に立って、その人に必要なことやその人の考えや気持ちなどが分かるような想像力や共感的に理解する力をつけていきたい。

＜こんな支援で＞

「であう」過程では、発展途上国の都市の問題と、国連機関ハビタットの活動を写真やビデオで紹介することで「発展途上国の都市の問題を解決するために、自分にできることは何だろうか」という課題をつかませたい。【知識的側面】

「さぐる」過程では、学習課題についての調べ学習をし、その結果を交流していく。その交流会に、ハビタットのAさんに来ていただき、世界の貧困の具体的な状況や、ハビタットが活動するときの大事にしている「思いや願い」を話していただくことによって、子ども達に「相手に立場に立って考える」ことの大切さなどに気付かせたい。また、世界の子ども達が描いた「理想の町」の絵と東吉塚の子ども達が描いた絵を比べることを通して、町づくりにはそこに住む人がつながることが重要であることに気付かせていきたい。

【価値的・態度的側面】・【技能的側面】

「まとめる」過程では、自分達が学習してきたことを6年生と保護者に向けて発信する。その後、交流時間を設け、これからも共に発展途上国の都市の問題に関心を持ち続け考え続けることが大事であることに気付かせたい。

【価値的・態度的側面】・【技能的側面】

＜めざす子どもの姿＞

発展途上国の都市の問題について関心を持ち、自分なりに課題をもって調べ、周りの人々と共に考えていこうとすることができる。(関心・意欲・態度)

自分達が調べたことを新聞形式にしてまとめ、友達同士で交流したり、6年生や保護者に向けて分かりやすいように表現したりすることができる。(技能・表現)

ハビタットのAさんの思いに学び、自分の生活と結びつけることで、発展途上国の都市の問題に対する見方や考え方を多面的にすることができる。(総合的な思考・判断)

3 指導計画（総計22時間）

過程	主な学習活動と内容	教師の支援と子どもの評価 教師の支援 子どもの評価活動
であらう	<p>1 世界の町の様子の写真の一つとして、貧困で劣悪な環境となっているスラムの写真に出会う。</p> <p>(1) 「自分達が行ってみたい国」アンケートに挙がっていた国の町の様子の写真で見る。</p> <p>(2) スラムで生活している子どもの写真やビデオを見て、気付いたことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発展途上国の都市の問題について知る。 <体験・交流活動 ></p> </div> <p>(3) 自分が知っていることや写真やビデオを見て知ったことを「考えマップ」に整理し、子ども達の願いから学習課題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><学習課題1> 発展途上国の都市の問題を解決するために、自分にできることは何だろうか。</p> </div> <p>(4) 考えマップをもとに、自分の課題や、課題設定の理由、「自分にできること」を課題別グループで聴き合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【5年〇組本時】 聴き合い活動</p> <p><課題例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような地域で貧困はあるのだろうか。 ・スラムではどのような生活をしているのだろうか。 ・今後貧困は、広がっていくのだろうか。 ・なぜスラムに住むようになったのだろうか。 ・ハビタットはどのような活動をしているか。 </div> <p>(6) 振り返りカードを書き、発表する。</p>	<p>世界のまちの写真を提示し、相違点や共通点を考えさせる。</p> <p>スラムの子ども写真や、アジアの発展途上国の都市で起きている問題の説明とハビタットの活動を紹介しているビデオを提示し、自分達の生活と関連づけながら考えさせる。</p> <p>写真やビデオ、これまでの生活経験をもとに「考えマップ」をまとめ、整理することで、自分の課題づくりに生かす。</p> <p>聴き合い活動では、話し手を一人にし、その話をもとに聴き手の子ども達も自分の考えを見直すことができるようにする。</p> <p>振り返りカードをもとに、聴き合い活動の自己評価をし、その結果を全体で交流することによって、聴き合いのよさを実感するとともに、次時からの活動への見通しをもつ。</p>
さぐる	<p>2 課題解決に向けて、調べ学習をする。</p> <p>(1) インターネットや本を使って調べていく。</p> <p>(2) 新聞形式にして、自分達が調べたことを交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【5年〇組本時】 聴き合い活動</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>都市の問題について調べたことをもとに考えた「自分にできること」を交流し、自分の考え方を深める。 <体験・交流活動 ></p> </div> <p>(3) 国連ハビタットの A さんから、発展途上国の都市の様子や、ハビタットの活動の様子、活動するときの思いや願いを聴く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【ゲストティチャー：課題解決に向けて】 国際連合人間居住計画（ハビタット） 福岡本部（アジア太平洋担当） A さん</p> </div> <p>(4) 自分達が調べたり交流したりしたこととつなげながら、ハビタットの方に質問をしたり、感想を出し合ったりする。</p>	<p>本や資料はあらかじめ、ある程度準備しておくとともに、インターネットのホームページも紹介できるようにしておく。</p> <p>課題が違う子どもどうして組んだグループで交流するようにする。</p> <p>A さんには、子ども達が聴き合い活動で話したことについての付加説明をしていただくとともに、活動されている時の思いや願い、子ども達へのメッセージを話していただく。</p> <p>聴き合い活動の中で分からないところがあったら、後で A さんに聴くように助言する。</p>

	<p>(5) 振り返りカードを書いて発表し、次時への見直しをもつ。</p> <p>3 調べたことや交流したことをもとに自分達の「理想のまち」を考え、絵に描く。</p> <p>(1) これまで調べてきたことや交流したことを「考えマップ」に整理し、これからの活動の方向を整理する。</p> <p>(2) 「スラムに住む人達のが気持ちよく過ごすことができるとは」についてグループで話し合う。</p> <p>(3) 話し合ったことをもとに絵をかく。</p> <p>(4) 自分達が描いた絵の発表をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">聴き合い活動</div></p> <p>(5) 教師が提示する世界の子も達が描いた街の絵を見せてもらい、自分達の絵や考えと比べる。</p> <p>(6) 振り返りカードを書き、「自分達にできること」について話し合う。</p>	<p>振り返りカードの中で、聴き合い活動を通して深まった自分の考えを書く。</p> <p>自分が調べて分かったことや友達から教えてもらって分かったことを「考えマップ」に表していく。</p> <p>現時点で自分が理想とする町の様子についてこだわりをもって絵の中に表していくように助言する。</p> <p>聴き合いの中で、自分の絵と相違点と共通点を考えながら聴き、お互いの違いを認め合うように助言する。</p> <p>世界の子も達が描いた絵から、そこに住む人達に、様々な願いがあって、それも考慮した「自分にできること」を考えることの大切さに気付かせる。</p> <p>振り返りカードをもとに、聴き合い活動のよさに気付くとともに、現時点での「自分にできること」についての考えをまとめる。</p>
<p>ま と め る</p>	<p>5 これまでの学習をもとに、6年生と交流会をする。</p> <p>(1) これまで学習をもとに、6年生や周りの人に伝えたいことをグループで考える。</p> <p>(2) 6年生との交流会に向けて提案する内容を準備をする。</p> <p>(3) 6年生と交流会をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">聴き合い活動</div></p> <p>5年生からの提案をする。 6年生を交えて、「発展途上国の人々が笑顔過ごすことができるために、自分達にできること」のテーマでグループごとに交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>都市の問題について、できるだけ多くの人に知ってもらい、一緒に考えていく。 < 体験・交流活動 ></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【共に学習する人】 6年生 保護者（グループに入ってもらって、交流の最後に感想を言ってもらおう。）</p> </div> <p>グループの交流でどのような意見が出たかを全体会で発表をする。</p> <p>(4) 聴き合い活動振り返りカードを書く。</p> <p>(5) これまでの活動を振り返り、自分の考えを「考えマップ」に整理する。</p>	<p>自分達が学習してきたことを「相手に伝わるように」という視点で、表現方法も含めて考えさせる。</p> <p>6年生には、5年生の提案を聴いて、質問をしたり、自分達の考えを発表したりするように事前に話をしておき、異学年間の聴き合い活動になるようにする。</p> <p>保護者の方には、グループに入ってもらって、提案を聴いての感想を主に言ってもらおう。</p> <p>振り返りカードをもとに、自己評価する。</p> <p>考えマップを描いた後、単元最初の考えマップと比べることにより、自分の考えの変容や、友達と聴き合いなどをしてきて高まってきたことを実感する。</p>

4 本時「個別の課題について調べたことをもとに、自分の考えを聴き合う場面」(8 / 22)

5 本時の目標

新聞形式にまとめたものを使って、自分の調べたことや考えを、相手に分かりやすく伝えることができる。(技能・表現)

友達やゲストティーチャーの話を聴いて、「自分にできること」の考え方を深めることができる。(総合的な思考・判断)

6 本時指導の考え方

これまでに子ども達は、「発展途上国の都市の問題を解決するために、自分にできることは何だろうか」という学級全体の学習課題をもとにして、自分なりの課題をもって、本やインターネットで調べ学習を行ってきた。

子ども達が課題として考えているものは、

- ・どのような場所で、住宅などの問題があるのだろうか。
- ・スラムでは、どのような生活をしているのだろうか
- ・今後、都市で起きている問題は、他の地域にも広がっていくのだろうか。
- ・なぜ、スラムに住むようになったのだろうか。
- ・ハビタットでは、どのような活動をしているのだろうか。

などである。

そして、これらの課題について調べてきたことを、新聞形式でまとめている。また、調べたことをもとに「都市の問題を解決するために、自分にできること」を考えている。

本時は、一人の話し手が、違う課題を調べた友達に対して、調べたことやそこから分かったこと、「自分にできること」を新聞をもとに発表し、聴き手が、自分の調べたことや考えをもとに、質問や確かめ、感想を出すことによって、「自分にできることは何だろうか」という考えを深める時間である。この時間の聴き合い活動を通して、自分が調べたことや考えを相手に分かるように伝えることと、友達やゲストティーチャーの話を聴くことを通して、「自分にできること」の考えを深めることができることをねらいとしている。

導入段階では、これまでの学習の足跡を使って、子ども達の学習課題と「自分にできること」を確認した後、本時の「調べたことをもとに聴き合い活動をして、『自分にできること』を見直そう」というめあてを確認する。また、ゲストティーチャーの方を紹介し、発展途上の都市の様子やハビタットの活動について、第1時のビデオの内容より詳しく話をしていただくことを知らせる。

展開段階では、まず、違う課題を調べた人どうしのグループに分かれ、一人の話し手が新聞をもとに発表していく聴き合い活動を行う。また、ゲストティーチャーであるハビタットのAさんには各グループを回っていただき、後で、子ども達の発表内容の付加・修正をしていただく。

次に、Aさんから、発展途上国の都市の具体的な現状やハビタットの活動内容について話をうかがう。ハビタットが取り組んでいる「まちづくり」は、都市の問題を抱える地域住民と協議会を開き、「これからどういう『まちづくり』がしたいか」「なにが必要か」をじっくり話し合い、住民が自分達のために決定し、行動できるように支援してしくやり方である。つまり、ハビタットは相手の立場に立って、その人が必要なことを支援していくスタンスをとっている。子ども達は、問題を抱えて困っている人に「自分ができること」といえば「募金をする」「使わない服を送る」という考えしか浮かんでいなかったが、ゲストティーチャーと出会うことにより、「相手を知り、相手の立場を考えることが大切である」という見方・考え方に改めて気付くことができ、有効な出会いになると考える。終末の段階では、「振り返りカード」を使って、自己評価を行う。聴き合い活動については、「自分のよさが分かったか」「友達のよさに気付いたか」「集団のよさを実感したか」という視点で振り返らせる。カードを書いた後は、全体での発表を行い、友達からの評価をもらうことによって、聴き合い活動をしたことのよさを実感させたい。また、本時の学習については、「新しく知ったことは何か」「自分の考えがどのように変わったり深まったりしたのか」という視点で、振り返らせる。最後に、都市の問題を抱えている世界の国々の子ども達が描いた「理想の町」の絵を見せ、そこに込められた「思いや願い」を考えていくという、次時からの活動の見通しをもたせたい。

7 準備

子ども 都市の問題についてまとめた新聞、画用紙に書いた表やグラフ、筆記用具
教師 学習の流れ図、振り返りカード

8 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
<p>1 ゲストティーチャーと出会い，本時学習のめあてを確認する。</p> <p> < 本時のめあて ></p> <p> 調べたことをもとに聴き合い活動をして，「自分にできること」を見直そう。</p> <p>【ゲストティーチャー】 国際連合人間居住計画（ハビタット） 福岡本部（アジア太平洋担当） A さん</p> <p>2 聴き合い活動を行い，友達の考えを知る。</p> <p>(1) 課題別グループの中で，一人の話し手が自分の調べたことをもとに考えた「自分にできること」について話す。</p> <p> < 予想される子ども達の課題 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場所で，住宅の問題があるのだろうか。 ・スラムでは，どのような生活をしているのだろうか。 ・今後，都市で起きてくる問題は，他の地域にも広がっていくのだろうか。 ・なぜ，スラムに住むようになったのだろうか。 ・ハビタットでは，どのような活動をしているのだろうか。 <p> < 予想される「自分にできること」 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアの中で，貧しさで苦しんでいる地域のことをもっと知りたい。 ・スラムに行って，自分の目で確かめたい。 ・協会や福岡市民の会が行っている活動に参加したい。 ・将来，ハビタットで働き，世界の平和を守りたい。 <p>(2) 聴き手から質問や確かめ，感想を出す。</p> <p>3 A さんから，発展途上国の都市の問題やハビタットの活動の様子について話を聴く。</p> <p>(1) A さんの話を聴く。</p> <p>(2) 自分達が調べたことや交流したことをつなぎながら，A さんに質問したり，考えを出し合ったりする。</p> <p>4 聴き合い活動を振り返り，次時への見通しをもつ。</p> <p>(1) 振り返りカードを書き，全体で発表する。</p> <p>(2) 次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「理想の町」の絵を見て，次時への見通しをもつ。 	<p>学習の足跡を使って前時までの学習を振り返り，本時のめあてと，子ども達がつけている課題を振り返るようにする。</p> <p>A さんには，子ども達の発表を聴いていただき，付加・説明をしていただくことを事前をお願いしておく。</p> <p>事前に一人ひとりの調べたことと「自分にできること」を見ておき，聴き合い活動における意図的なグループ編成を行うことで，子ども達の考えが深まるようにする。</p> <p>話し手には，調べた事実，そこから分かったこと・思ったこと，これからやっていこうと考えている「自分にできること」の順番で話していくことを事前に指導しておく。</p> <p>質問や感想を話すことが苦手な子どもに対して，机間指導でアドバイスをする。</p> <p>聴き合いの中で，わからないところがあったら，後で A さんに質問できるように残しておくように助言する。</p> <p>「住民の自立を促すまちづくりをすすめる」というハビタットの活動方針や A さんの思いや願いをを話していただくことにより，子ども達に相手の立場になって，その人に必要なことが何かを考えることの重要性に気付かせる。</p> <p>違う課題の発表を聴き合う活動やゲストティーチャーから話を聴く活動を振り返り，「自分の考えを深めることができたか」という観点で振り返りカードに自己評価することで，聴き合い活動のよさを実感する。</p> <p>全体で交流することによって，他者評価をもらい，聴き合いで意見を出したことのよさを実感する。</p> <p>世界の子子ども達が描いた「理想の町」の絵を見て，そこに込められた「思いや願い」を考えていくという，次時からの活動の見通しをもたせる。</p>

4 本時「聴き合い活動を通して、自分の課題や今後の行動への考えを深める場面」(2 / 22)

5 本時の目標

聴き合い活動を通して自分の考えに友達の考えを生かすことができる。

(総合的な思考・判断)

6 本時指導の考え方

前時までには子ども達は、発展途上国の都市では、都市の急激な人口増加や、災害などで「スラム」に住むことになり、不衛生な環境で過ごしている人々がいることをわかってきている。また、そのような環境を改善していくために、地域住民の方々と「まちづくり」を進めている国連機関ハビタットの存在を知っている。そして子ども達は、教師が提示した写真やビデオを見たことや、自分のこれまでの生活経験の中から、都市の問題について知っていることやわからないことを考えマップに表している。さらに、「貧しさに苦しむ人達に対して、自分達にできることをしたい」という子ども達の願いから「発展途上国の都市の問題を解決するために、自分にできることはなんだろうか。」という学習課題を設定し、前時の段階での「自分にできること」を一人ひとりの子どもが考えている。

本時は、子ども達一人ひとりが「考えマップ」をもとにつくった学習課題と、「都市の問題を解決するために自分にできることは何か」を聴き合い活動を通して見直し、深める時間である。

導入段階では、まず、子ども達が考えている個人の課題を発表することから始める。友達がどのようなことを考えているかを知ることで、聴き合い活動への見通しをもたせ、本時のめあて「考えマップをもとに聴き合い活動をして、学習課題と『自分にできること』を見直そう」をつかませていく。

展開段階では、4～5人での課題別グループでの聴き合い活動を行う。予想される子ども達の課題は

- ・どのような場所で、住宅などの問題があるのだろうか。
- ・スラムでは、どのような生活をしているのだろうか。
- ・今後、都市で起きている問題は、他の地域にも広がっていくのだろうか。
- ・なぜスラムの住むようになったのだろうか。
- ・ハビタットでは、どのような活動をしているのだろうか。

などになることを想定している。また、この時点で子ども達が考えている「自分にできること」は

- ・何か困っている物を送りたい。
- ・募金をしたい。
- ・ハビタットに入りたい。
- ・「自分にできること」が何かをもう少し考えたい。

などであることを予想している。

課題別グループの中では、一人の子どもが、自分の考えマップの説明、学習課題や設定理由、これからやっていこうと思っている「自分にできること」を話していく。

それに対して、聴き手の子ども達は、始めに質問やたしかめを話し手にした後、感想を話していく。感想を話すときには、考えている「自分にできること」が、話し手が話してくれたことでどのように変わったのかを言うように助言していきたい。

聴き合い活動が終わった後は、考えマップに自分の考えを付加したり、修正したりを赤のえんぴつで行わせる。そうすることで、子ども達は、聴き合い活動で友達の考えを知ることができたことの良さを感じることができると考える。

終末の段階では、振り返りカードに、本時の学習で初めて知ったことや、聴き合い活動を終わった現時点での「自分にできること」を書き、その後発表する。発表において、聴き手の子どもが「友達の話を聴いて、ぼくにできることは～もあるのかなあと思うようになりました。」というような内容を言うていくことで、話し手が聴き合い活動をしたことでの満足感や自信をもてると考える。

7 準備

子ども 考えマップ 発表に必要な道具(話し手の子どものみ)

教師 前時までの学習をまとめた掲示物、振り返りカード

8 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
<p>1 友達が考えた「発展途上国の都市の問題を解決するために、自分にできること」を知り、本時学習のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 「自分にできること」を発表する。</p> <p>(2) 本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— <本時のめあて> —</p> <p>考えマップをもとに聴き合い活動をして、学習課題と「自分にできること」を見直そう。</p> </div> <p>2 聴き合い活動を行い、友達の考えを知る。</p> <p>(1) 課題別グループ(4～5人)の中で一人の話し手が自分の課題とそれを調べようと思った理由について話す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— <予想される子ども達の課題> —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場所で、住宅などの問題があるのだろうか。 ・スラムでは、どのような生活をしているのだろうか。 ・今後、都市で起きている問題は、他の地域にも広がっていくのだろうか。 ・なぜスラムに住むようになったのだろうか。 ・ハビタットでは、どのような活動をしているのだろうか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>— <予想される「自分にできること」> —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か困っている物を送りたい。 ・募金をしたい。 ・ハビタットに入りたい。 ・「自分にできること」が何かをもう少し考えたい。 </div> <p>(2) 聴き手から質問や確かめ、感想を出す。</p> <p>3 友達の考えをもとに、自分の考えを見直したり、付け加えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き合い活動を通して、考えマップに付け加える。 ・「自分にできること」を付加・修正したりする。 <p>4 振り返りカードを書き、発表する。</p> <p>(1) 振り返りカードに書いて、活動を振り返る。</p> <p>(2) 振り返ったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き合い活動を通して変わっていった考えや深まった考えを発表する。 	<p>クラス全体でどのようなことが学習課題に挙がっているかをお互いが知るために発表の場を設ける。</p> <p>事前に一人ひとりの考えマップと「自分にできること」を見ておき、聴き合い活動における意図的なグループ編成を行うことで子どもの考えが深まっていくようにする。</p> <p>話し手には、考えマップの説明、学習課題、課題設定の理由、これからやっていこうと思っている「自分にできること」の順番で話していくことを事前に指導しておく。</p> <p>質問や感想を話すことが苦手な子どもに対して、机間指導でアドバイスをする。</p> <p>グループの友達の考えの良さや自分の考えとの差異点や共通点に気付く。</p> <p>考えマップに付加・修正したことを赤鉛筆で記入させ、聴き合い活動の良さを実感できるようにする。</p> <p>聴き合い活動を振り返り、友達の考えの良さや自分の考えの深まりに気付く。</p> <p>子どもが持っている考えマップをプロジェクターで写し、聴き合い活動でどの考えが深まっていったのかを分かるような発表になるように助言する。</p>